

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 067

(2023/24年度 USDA米国農務省 2月8日発表)

[ハイライト]

① 世界の23/24年度穀物/大豆の生産/消費量は史上最大見通し、食糧貿易量は「一般炭輸送量」に迫る勢い

穀物(小麦/粗粒穀物/米)の23/24年度需給見通しはほぼ固まってきたが、下記に示す通り生産/消費量とも28.1億ト、貿易量5.0億トと史上最高、期末在庫量は7.8億ト(在庫率27.7%)と一見潤沢。大豆は生産量4.0億ト/消費量3.8億ト/貿易量1.7億トとこれも史上最高の見通しである。また食糧全般の海上貿易量は大豆粕/菜種等も含めれば7.7億トと一般炭輸送量(9億ト)に迫る勢いであり、27年にはそれを上回る見通しである。遡って穀物/大豆の00/01年度生産数量は其々18.5億ト/1.8億ト/貿易量合計3.0億ト(穀物2.1/大豆0.54/大豆粕0.36億ト)であり、この約20年間の伸び率は穀物1.5倍/大豆2.2倍/貿易量2.6倍と急増している。

② 農産物を主原料としたバイオ燃料生産拡大により、食糧自給(フードセキュリティ)が世界的課題に

上記の通り世界の食糧需給は一見平穏に見えるが、他方では農産物のバイオ燃料向け使用割合が高まっておりFSとの観点から議論が高まりつつある。21年現在品目別には、コーン需要量の13.3%/大豆油19.5%/菜種油20.6%/パーム油19.0%/サトウキビ生産量の19.5%がバイオ燃料に使用されており更にその数量/比率は高まりつつある。これは一面農産物価格の「下支え」効果はあるが、農産物の需給逼迫/価格高騰時にはFSを優先させるべきとの世論も強く、この攻防が今後厳しくなる可能性大。

③ 「黒海イニシアティブ」停止後、停滞したウクライナ穀物輸出は10月以降拡大傾向続く

ロシアは昨年7/17「黒海イニシアティブ」から離脱、その後ウクライナの穀物/油糧種子輸出は7-9月230万ト前後と低迷したが、ルーマニア/ブルガリア沖経由の「臨時回廊」やルーマニア「コンスタンツ港経由」ドナウ川利用等によって10月313万ト/11月430万ト/12月614万トと回復してきている。その結果、別添今月のUSDA統計ではウクライナのコーン/小麦輸出数量見通しは侵攻前よりはまだ約2割程少ないが、230万ト/150万トと昨年9月見通しより其々+350/+400万トと拡大している。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

① 生産量:	2,810百万ト (前年比2.2%)	増 ↑、前月比0.1%	減 ↓
② 消費量:	2,812百万ト (前年比1.7%)	増 ↑、前月比0.0%	⇒
③ 貿易量:	503百万ト (前年比1.6%)	増 ↑、前月比0.4%	増 ↑

2、小麦

① 生産量:	786百万ト (前年比0.4%)	減 ↓、前月比0.1%	増 ↑
② 消費量:	798百万ト (前年比0.9%)	増 ↑、前月比0.1%	増 ↑
③ 輸出量:	211百万ト (前年比4.3%)	減 ↓、前月比0.5%	増 ↑
⑤ 在庫量:	259百万ト (前年比4.3%)	減 ↓、前月比0.2%	減 ↓ / (在庫率 33%) うち中国133百万ト、占有率51%
④ 価格:	\$6.00/Bu (前年\$7.57/Bu / 前月\$6.16/Bu) と前月比\$0.16 下落。		
⑤ 概況:	世界生産量は前月より約百万ト増加したが豪州減産の為前年よりは約4百万ト減少見通し。消費量はインドの食用需要増から前年比7百万ト増加、在庫量は消費が増加した為前年比12百万ト減少。輸出は前年比減少したが2億トは超える見通し。		

3、とうもろこし

① 生産量:	1,233百万ト (前年比6.6%)	増 ↑、前月比0.3%	減 ↓
② 消費量:	1,211百万ト (前年比3.8%)	増 ↑、前月比0.0%	⇒
③ 輸出量:	201百万ト (前年比11.0%)	増 ↑、前月比0.0%	⇒
④ 在庫量:	322百万ト (前年比7.3%)	増 ↑、前月比1.0%	減 ↓ / (在庫率 27%) うち中国212百万ト、占有率66%
⑤ 価格:	\$4.43/Bu (前年\$6.78/Bu / 前月\$4.61/Bu) と前月比\$0.18 下落。		
⑥ 概況:	世界生産量は早魃の為BRAが前月比約3百万ト減少したが前年比では米国/ARGが生産回復し約70百万ト増産となり史上最高見通し。消費量は世界各国で増加傾向で12億トを超える見通し。期末在庫は生産が消費を大きく上回っている為前年比11%増で3億トを超え上記の通り市場価格低迷している。輸出は前年比11%増で2億ト台を維持する見通し。		

4、大豆

① 生産量:	398百万ト (前年比5.3%)	増 ↑、前月比0.2%	減 ↓
② 消費量:	383百万ト (前年比5.0%)	増 ↑、前月比0.2%	減 ↓
③ 輸出量:	171百万ト (前年比0.8%)	減 ↓、前月比0.2%	減 ↓
④ 在庫量:	116百万ト (前年比12.0%)	増 ↑、前月比1.2%	増 ↑ / (在庫率 30%) うちBRA36/ARG26百万ト
⑤ 価格:	\$11.89/Bu (前年\$15.32/Bu / 前月\$12.50/Bu) と前月比\$0.61 下落。		
⑥ 概況:	世界生産量はBRA主産地マトグロッソ州早魃の為単収減で前月比若干減少したが前年比では約20百万ト増加見通し。消費量も前年比では8百万ト程増加し史上最高見通し。輸出はBRAが1億トの大台に乗せ中国輸入量も1億ト超の見通しと好調。		

世界の穀物・大豆等の需給

2024年2月8日
米国農務省発表： 単位 1 0 0 万トン

主要穀物世界の需給							
			生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2021/22		2,794	3,589	514	2,795	794
	2022/23		2,748	3,542	496	2,765	778
	2023/24	1月	2,812	3,590	501	2,811	779
	2023/24	2月	2,810	3,587	503	2,812	775
小麦	2021/22		780	1,064	203	791	273
	2022/23		789	1,062	220	791	271
	2023/24	1月	785	1,056	210	796	260
	2023/24	2月	786	1,057	211	798	259
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2021/22		1,501	1,824	254	1,486	338
	2022/23		1,446	1,784	221	1,454	330
	2023/24	1月	1,514	1,844	240	1,492	352
	2023/24	2月	1,510	1,840	241	1,492	348
米	2021/22		513	701	57	518	183
	2022/23		513	696	54	520	176
	2023/24	1月	514	689	52	522	167
	2023/24	2月	514	690	52	523	167
大豆	2021/22		360	461	154	363	98
	2022/23		378	476	172	373	104
	2023/24	1月	399	501	171	384	117
	2023/24	2月	398	502	171	383	119

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	1月	300.56	1,235.73	190.76	1,211.07	200.89	325.22
	2月	300.25	1,232.57	189.82	1,210.76	200.82	322.06
アメリカ	1月	34.55	389.69	0.64	316.63	53.34	54.91
	2月	34.55	389.69	0.64	316.37	53.34	55.17
アルゼンチン	1月	1.11	55.00	0.02	14.10	41.00	1.03
	2月	1.11	55.00	0.02	14.10	41.00	1.03
ブラジル	1月	10.27	127.00	1.20	77.50	54.00	6.97
	2月	10.27	124.00	1.20	77.50	52.00	5.97
EU	1月	7.23	60.10	23.50	79.20	4.20	7.43
	2月	7.23	60.10	23.00	78.90	4.20	7.23
日本	1月	1.30	0.01	15.50	15.50	0.00	1.31
	2月	1.30	0.01	15.50	15.50	0.00	1.31
中国	1月	206.04	288.84	23.00	306.00	0.02	211.86
	2月	206.04	288.84	23.00	306.00	0.02	211.86
ロシア	1月	0.91	17.00	0.05	11.60	5.30	1.06
	2月	0.91	17.00	0.05	11.60	5.30	1.06
ウクライナ	1月	2.80	30.50	0.02	5.50	21.00	6.82
	2月	2.80	30.50	0.02	5.00	23.00	5.32

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	1月	101.87	398.98	168.35	383.66	170.94	114.60
	2月	103.57	398.21	167.85	383.03	170.57	116.03
アメリカ	1月	7.19	113.34	0.82	65.97	47.76	7.62
	2月	7.19	113.34	0.82	65.97	46.81	8.57
アルゼンチン	1月	17.21	50.00	6.10	42.75	4.60	25.96
	2月	17.21	50.00	6.10	42.75	4.60	25.96
ブラジル	1月	35.35	157.00	0.45	57.50	99.50	35.80
	2月	37.35	156.00	0.45	57.50	100.00	36.30
中国	1月	33.79	20.84	102.00	120.50	0.10	36.03
	2月	33.79	20.84	102.00	120.50	0.10	36.03
EU	1月	1.32	3.06	13.80	16.59	0.30	1.29
	2月	1.22	3.06	13.80	16.49	0.30	1.29

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	1月	271.56	784.91	209.15	796.44	209.54	260.03
	2月	271.21	785.74	209.89	797.52	210.69	259.44
アメリカ	1月	15.50	49.31	3.95	31.41	19.73	17.62
	2月	15.50	49.31	3.95	31.14	19.73	17.90
アルゼンチン	1月	4.07	15.00	0.00	6.70	10.00	2.37
	2月	4.07	15.50	0.01	6.70	10.50	2.38
オーストラリア	1月	4.37	25.50	0.20	7.50	19.00	3.57
	2月	4.37	25.50	0.20	7.00	19.50	3.57
カナダ	1月	3.64	31.95	0.60	8.70	24.00	3.50
	2月	3.66	31.95	0.60	8.70	24.00	3.51
EU	1月	16.52	134.30	11.00	110.00	36.50	15.32
	2月	16.52	134.00	12.00	110.50	36.50	15.52
中国	1月	138.82	136.59	12.50	153.50	0.90	133.51
	2月	138.82	136.59	12.00	153.50	0.90	133.01
インド	1月	9.50	110.55	0.25	109.90	0.40	10.00
	2月	9.50	110.55	0.25	111.00	0.30	9.00
ロシア	1月	14.64	91.00	0.30	43.00	51.00	11.94
	2月	14.64	91.00	0.30	43.00	51.00	11.94
ウクライナ	1月	3.50	23.40	0.08	8.60	14.00	4.38
	2月	3.50	23.40	0.08	8.00	15.00	3.98

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界主要国の農業と穀物需給の行方…ロシア(5)

- ① 先月号ではロシアの穀物生産～輸出までのサプライチェーンと物流コストについて輸出競合相手である豪州との比較に於いて整理をしたが、今月は最終の出口であるロシアの主な穀物輸出港とその輸出能力などについて探ってみたい。特に、この2010年以降のロシアの穀物生産/輸出の急拡大の中で**黒海沿岸の輸出基地の存在**が大きくなっている。
- ② ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻以来、ほとんどの統計資料公表は行われていない為近年の穀物生産/輸出拡大の数値を踏まえた輸出港別実績は正確には把握出来ないで、2016年実績をベースに整理したい。端的に言えば別表に見る通りロシアの港湾別穀物輸出能力は公称値で全体約40百万ト、その**約8割以上の33.5百万トは「黒海・アゾフ海」に集中**している。それ以外ではカスピ海1.5百万ト、バルト海2.2百万トとその数字は限定的。実績値では表にある通り2010-15年最大値で合計約34百万ト、ところが昨年度(22/23年度)輸出実績は**何と約60百万ト(うち小麦48百万ト)と公称値の1.5倍の驚異的輸出**を記録した。その輸出先は、従来の中東/アフリカに加え近年は**ベトナム/インドネシア等アジア向け小麦輸出が約7百万トと急増**。当然ロシアはここ10年程度で輸出拡大に対応する為、港湾別に諸々の設備更新や港湾改修等を行ったのは明白であるがその具体的な**実態は掴めていない**。
- ③ 黒海・アゾフ海沿岸の主要穀物輸出港の配置は下記地図に示した通りであるが、黒海では**ノボロシスク/トゥアプセ/タマニ**の3港が約4-5万ト積載可能、アゾフ海では**ロストフ/アゾフ/エイスク**の3港が3-5万トクラスの港湾として配置されている。当然この6港がロシアの約60百万ト穀物輸出の太宗を担っている構図に違いはないが、この背景はロシアの主要穀物生産地帯であり**全国生産の約7割(約1億ト)を占める「北カフカス」「沿ボルガ」「中央黒土」の黒土地帯に隣接**していることである。逆に言うこのシリーズ(3)でも述べたルーブル安を背景に**黒海沿岸輸出基地を目指して**この3地域が大きく生産を拡大したとも言える。先月号のロシア港湾荷役料金の高さはこの**港湾拡張投資を反映**している可能性がある。
- ④ 現在ロシアは、インフラ整備の一環で国内物流網の再編強化に注力しておりバルト海に通じるフィンランド湾では複数の港の拡張整備、黒海ではタマニ港に通じる鉄道延伸、中国/東南アジアに向けての東方戦略ではシベリア鉄道/バム鉄道に加え新たな**鉄道建設「新陸路穀物回廊」に着手**している。周知の通りロシアは中国/カナダと並ぶ無機肥料の大量輸出国(約19百万ト-N7/P3/K9)でもあり、**食糧/肥料をめぐる物流網の再編強化の国際的影響力**は大きく、その動向には注目する必要がある。(続く)

【表1】ロシアの港湾別穀物出荷能力(単位:百万トン)

出所: 農林水産政策研究所

水域	港湾名	過去6年の最大値	公称値
黒海	小計	17.8	19.6
	ノヴォロシスク	11.8	13.5
	トゥアプセ	2.4	2.5
	タマニ	3.6	3.6
アゾフ海	小計	13.3	13.9
	ロストフ	3.8	4.2
	アゾフ	4.2	4.5
	エイスク	1.9	2.1
カスピ海	小計	1.5	1.5
	アストラハン	1.0	1.0
バルト海	小計	0.9	2.2
	シポフカ	0.8	2.0
太平洋	ウラジオストク	0.1	1.0
クリミア	小計	0.3	2.3
計		33.9	40.5

